

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)

個人研究

2019年度研究成果報告書

研究代表者	所属部局・職	氏名
	文学部・教授	沼尻 晃伸 印
研究課題	昭和恐慌期～戦時期日本における兼業農家の日常生活と生活世界に関する実証的研究	
研究期間	2019年度	
研究経費 (1円単位)	(支出金額) 439,668円 / (採択金額) 440,000円	
<p>研究の概要 (200～300字で記入、図・グラフは使用しないこと)</p> <p>本研究は、昭和恐慌期から日中戦争期を対象として、静岡県安倍郡大河内村(現静岡市葵区)山間部に位置する有東木集落に居住する兼業農家の構成員が記した日記史料(『鉄五郎日記』)を題材として、同文献の翻刻作業を進めるとともに、登場人物や地名、農作業に関する古老からの聞き取り調査を行い、日記の内容把握に必要な事項を記録化した。歴史的公文書から同集落の階層構造を明らかにしたうえで、日記から判明する多様な仕事を、生活を維持し生き抜くための生産活動の全体像としての生業と捉え、生業を支える家族・親族や種々の社会的諸関係の検討を通じて日常生活と生活世界の有り様や市場的關係のなかで変化する生業の特徴を剔出した。</p>		

<p>キーワード (研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)</p> <p style="text-align: center;">[生活世界] [生業] [山村]</p>

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

本研究の成果は、以下の3点にまとめることができる。

1. 本研究課題を追及する上での方法上の成果

本研究課題が対象とする日記の書き手(白鳥鉄五郎)は山間部に居住し、家業の農業だけでなく、農業以外の種々の仕事(石工など)に携わっていた。当初、研究代表者は、自身のこれまでの研究にならい、「兼業農家」として鉄五郎を位置づけ、ミクロ歴史研究を進めようとしたが、日記にみられる山間部の生産と生活を把握するなかで、「兼業農家」という捉え方とは異なる問題関心・研究手法から生活世界に接近する必要があるに至った。そこで、山間部の民衆生活を対象とした前近代も含めた歴史学や民俗学、人類学などの先行研究を講読し、その過程で、近年日本中近世史研究において生業という視角からの歴史研究が深化していることに気づいた。井原今朝男は、生業を、生活を維持し生き抜くための生産活動の全体像を分析する民衆の側からの概念として用いることを提起している(井原今朝男「生業から民衆生活史をふかめる」国立歴史民俗博物館編『生業から見る日本史』吉川弘文館、2008年)。日記から読み取れる生産活動を「茶や山葵の生産」「石工仕事」というように生産物や労働の中身を各々別個に考えるのではなく、「生業」という概念を用いることで、むしろ生活を維持し生き抜くための生産活動としての共通する側面に注目し、それらは全体としてどのように維持し得たのか、また歴史的限界を有していたのかという視点から、日々の営みを可能とする(そして限界付ける)諸々の仕事やそれらを担う家族や種々の社会関係に注目して検討すれば、日記が有する貴重な情報を十分に生かす形で生活世界を描くことが可能であることに思い至った。そこで本研究では、これまで筆者が採用してきた分析手法、すなわち集落内部の家々の階層性と、家族のライフサイクルや村落内部の社会関係の検討をいかしつつ、生業とそれを支える生活世界の追及を進めることとした。

2. 日記の翻刻、日記の舞台となる集落に関する聞き取り調査及び階層分析

本研究が対象とした『鉄五郎日記』に関しては、日記本文の翻刻作業に関して、アルバイターの協力を得て、1939年まで実施するとともに、所在地への実地調査を行い、個人蔵の資料の撮影や日記本文に登場する人物や地名などに関する古老からの聞き取り調査を行い、これらを記録に残した。同時に、静岡市役所が所蔵する旧大河内村役場文書を用いて、有東木地区の階層構成を検討した。その結果、1927年村税戸数割順位の分布を見ると、大河内村全体における各順位の戸数の全戸数に占める割合と有東木地区における同様の割合とでは下層の順位の割合が有東木地区でやや多いという点を除けば大きな差異は見られないものの、1943年市民税賦課額で同様の点を見ると、有東木地区で上層に位置する戸数が減少したことが判明した。同時代における大河内村を対象とした経済調査によれば、第一次世界大戦以後に規模拡大を試みた農家が昭和恐慌により負債を残した点、有東木地区は大河内村他地区に比べ規模の大きい山林経営を行う農家はなく山葵生産が主である点が報告されており、大河内村のなかでも恐慌による打撃を強く受けた地区として有東木地区を位置付けることができよう。

3. 日記分析とそこにみられる生業と生活世界の諸特徴

日記の翻刻と並行して日記の分析も開始した。そこから見出される生業と生活世界の特徴は、以下の3点にまとめることができる。

第一に、生業は、実に多様な仕事によって構成されているという点である。その仕事内容を大まかにまとめれば、「家仕事」と「雇われ仕事」に分かれる。「家仕事」は、1～3月は薪切りと切った薪を運び出す作業が多く、同時にこの時期に山葵田への山葵植えを行う。4月～5月は茶摘みと茶もみに多く時間が費やされそれに必要な茶薪の準備も行う。一番茶の収穫が終わる6月には麦の収穫が始まり、サツマイモやなす、弘法稗植えや小豆まき、二番茶の茶摘みを7月にかけて行う。8～9月には養蚕仕事と山葵の

研究成果の概要 (つづき)

収穫と苗植えがあり、10月に肥料作りと小豆こぎ、11月にそばこきと麦まき、12月に山葵取りと山葵植え、山仕事というようなサイクルで進められた。これらの作業に加えて、鉄五郎は年間平均約140日程度の「雇われ仕事」＝賃金を得る仕事に出ていた。鉄五郎が「雇われ仕事」に出ている日は、妻や両親が上記作業を担うと推定される。同集落は街道から外れた険しい山間部に位置するため自動車は基本的には集落に入ることはできず、上記収穫物の運搬は人力(あるいは鉄線)となる。「背負う」作業が度々日記に登場するのはこのためで、女性も「背負う」作業を担っており、生業は肉体的に極めて過酷なものであった。

第二に、過酷な種々の仕事は危険と隣り合わせで怪我をすることも多く、鉄五郎自身も作業中の事故のため、1934年には一月以上仕事を休んだ。また有東木集落は無医村であるため、病気になった際の治療は難儀を極めた。そのような怪我や病気に対して、家族や親族だけでなく仕事仲間による看病や救援活動は、仕事に優先して行われる場合が多かった。一例をあげれば、1927年12月23日に、前日に大怪我をした人物を鉄五郎を含む14.5人で雨中安倍峠を越えて山梨県南部町に人力で運び、そこから鉄道で下部温泉に連れていったことが描かれている。病気に対する恐れも強く、子供や家族が体調が悪い場合、鉄五郎はほとんどの場合仕事を休み看病し、1日ばかりで街道に面した集落の医者に連れて行っていった。このような家族・親族と仕事仲間による生活世界が存在して、初めて過酷な生業が成り立っている点に注目する必要がある。但し、同時にそのことの限界面(鉄五郎の場合、1928年と1934年に病気で子をなくしている)にも留意する必要がある。

第三に、1930年代から日中戦争期にかけて、生業のなかでも変化が見られるという点である。なかでも重要なことは、鉄五郎は「雇われ仕事」で他人の山葵田を作るだけでなく「家仕事」として自らの山葵田の整備を続け生産に邁進したため、山葵生産の日数の増加傾向が見られる点である。そのため鉄五郎の年間仕事日数で最も多い「雇われ仕事」日数に、1930年代に入って「家仕事」の農作業日数が追いつく傾向が見られる。昭和恐慌のもと集落内では負債を抱え没落する農家も存在したが、鉄五郎の場合、茶のみならず山葵生産に意欲的になることで、農産物市場との関係性を強めつつ生業を営み恐慌を乗り越えようとする姿がそこに見出される。他方、このことが、他の家族構成員の仕事量を増やし、そのことが怪我や病気の一要因となっていく側面も否めない。このような生業の歴史的特質に関する把握を、今後さらに追究していきたい。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ①雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ②図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

- ④
- (a) 立教大学共生社会研究センター広報誌への執筆
沼尻晃伸「民衆知としての「草」と「雑草」——1970年代～80年代のミニコミから学んだこと」『PRISM』13号、2019年11月、1頁。
- (b) 現代史研究会 (立教大学) での報告
沼尻晃伸「「人格」と「承認」に関する一考察」(2019年11月9日、於：立教大学)
- (c) 依頼原稿の執筆
沼尻晃伸「書評 鬼嶋淳著『戦後日本の地域形成と社会運動 生活・医療・政治』」(日本経済評論社、2019年)『歴史評論』編集委員会より依頼。執筆済み。掲載号は未定。
- (d) 学会報告への応募と採用
社会経済史学会第89回(2020年度)全国大会(2020年6月27日・28日、於：神戸大学)に以下のタイトルの自由論題報告を応募し、採用となった。
沼尻晃伸「戦間期における山間部の生業と家族・社会関係——『鉄五郎日記』の分析を通して——」(6月27日に報告予定)